

天気と



第104号
Jan 2017

自然と共に歩む 日本気象予報士会 CAMJ 日本気象予報士会会報

平成二十九年 年頭ご挨拶

新年、あけましておめでとうございます。昨年は台風第1号の発生こそ記録的に遅かったものの、6個の台風が日本に上陸し、特に第10号は東北地方を中心に甚大な災害をもたらしました。また、秋口には不順な天候が続き、日照不足で農業生産に大きな影響が出るなど、気象に関する話題に事欠かない1年でした。今年も、気象災害が少ない年になるよう切に願います。

本会は昨年、設立20周年を迎え、新たな成熟したステージの入り口に立っています。昨年の暖候期に気象庁予算で行われた「気象情報活用支援モデル事業」では、6名の気象予報士の方々が全国6か所の地方自治体に派遣され、大きな成果を残したと聞いています。ちなみに、派遣された6名の気象予報士の皆様は全員が本会の会員であり、本会としても、それらの方々から派遣経験を会員に還元していただく機会を設け、本会会員、ひいては気象予報士全体の防災対応能力の向上に生かせればと思います。また、最近では、防災分野だけにとどまらず、産業活動の面でも気象予報士の専門知識を活かす場を広げようとの取り組みも動き出しています。本会としても、このような内外からの期待に応える活動を行っていく必要があると考えますので、会員の皆様の日本気象予報士会の諸活動への積極的なご参加をよろしく願いいたします。

さて、日本気象予報士会として、これまで、気象庁と連携して各地で「防災プロジェクト (BP)」やお天気フェアへの協力を行ってきました。また、日本気象学会との連携で秋季大会でのスペシャルセッションの運営や気象サイエンスカフェのお手伝いも行ってきたところです。昨年、名古屋での秋季大会でのスペシャルセッションの運営にあたられた、地元、東海支部の皆様には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。本会としては、より一層の社会貢献活動を行っていきたく考えていますが、予算上の制約から、BPの回数を増やすことは難しいのが現状です。BPで培った経験を活かして、各支部・有志団体などのレベルで、社会貢献活動の幅が広がることに期待します。

気象予報士の資格は、一度取れば更新の必要がない「終身もの」の資格とは言え、気象学の発展や気象観測・

予測技術の向上は日進月歩であり、気象庁が運用を始めた「特別警報」や「新たなステージ」に対応した様々な取り組みに見られるように気象庁が発表する気象情報の変革が急速に進められています。気象予報士の資格に安住していると、「浦島太郎」にもなりかねず、ひいては、それが気象予報士の資格の陳腐化に繋がりがかねません。このため、本会の重要な活動として従来から行ってきた会場型の気象技能講習会に加えて、インターネット環境さえあれば「いつでも・どこでも」聴講できる「Web型講習」を充実させてきているところです。現在、聴講できるプログラムを多く用意しておりますので、会員の皆様のご登録・ご聴講をお待ちしております。

会員の皆様の気象予報士としての自主的で継続的な技能研鑽の努力を対外的にも見える形で評価することを目的に「CPD制度」を正式に発足させ、2年目に入ります。千名近い会員の方にご登録をいただき、ポイントの積み上げを行っていただいているところです。来年度には初の認定者が出る予定です。この制度が定着することが、気象予報士資格の社会からの認知度・信頼度の向上に繋がりを、ひいては日本気象予報士会に入会される方が増えることにも期待したいと思います。

本会は、「気象予報」というキーワードで結びついてはいるものの、実に様々な活動分野、考え方、趣味・興味をお持ちの方々の交流の場であることは、私自身が身をもって感じていることです。このような交流の場を継続的に準備し提供するとともに、会員の皆様が「日本気象予報士会に入っていてよかった」と思っただけのような会の運営に努めてまいり所存です。

2017年が会員の皆様にとって平和で実りの多い年になるとともに、本会にとっても大きな発展の年になることを祈念して新年にあたってのご挨拶といたします。



一般社団法人日本気象予報士会 代表理事会長 大西晴夫

てんきすと100号に掲載された「ハテナの雲」について

質問

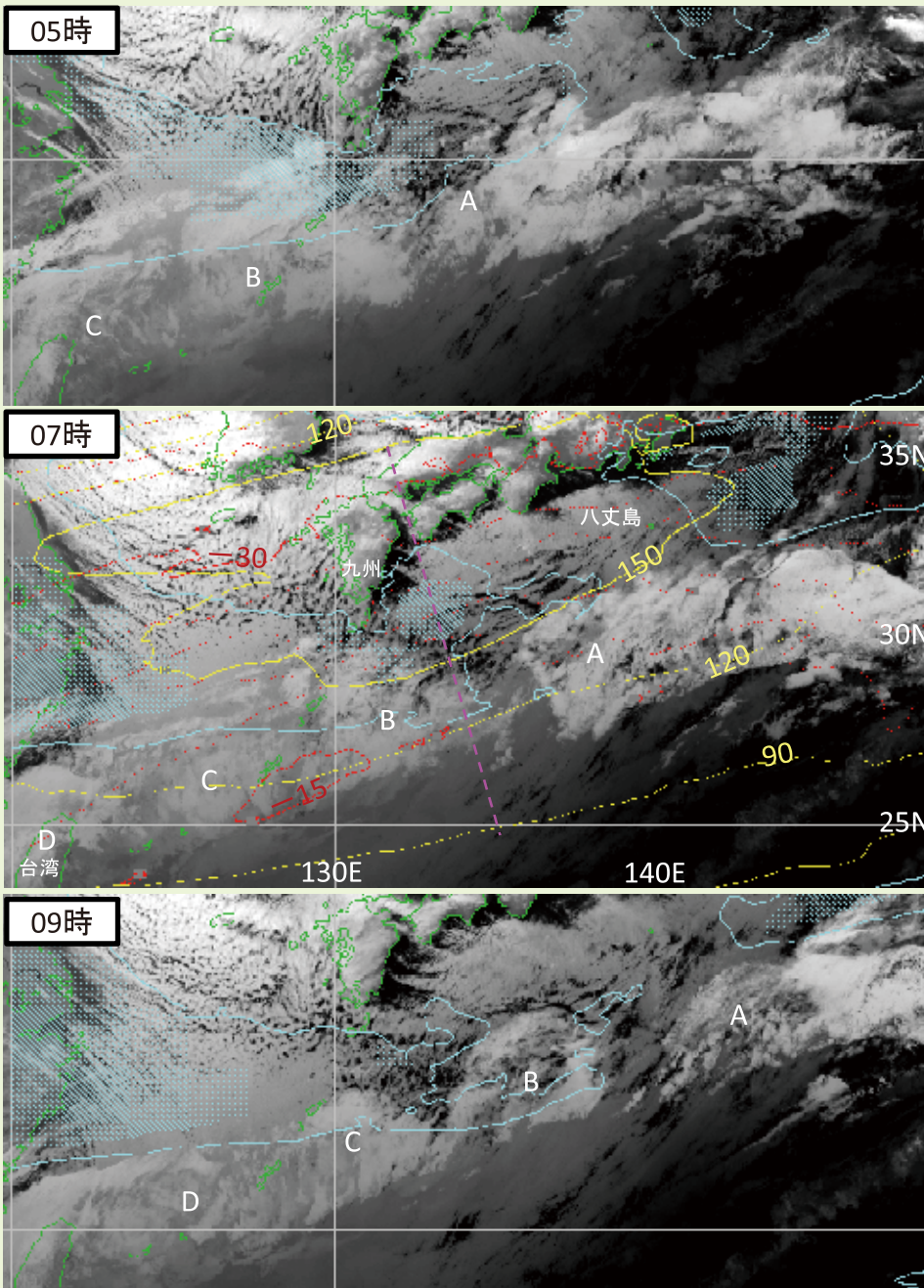
てんきすと100号で木村先生が寄稿された「ハテナの雲」について、その成因はケルビン-ヘルムホルツ波（K-H波）によるものと示唆されています。

どのような過程を経てあのような雲が発生したと考えられるでしょうか？

回答

第1図は2016年1月24日05時、07時、09時の日本の南海上の赤外画像にLFM（気象庁局地モデル）700hPa面の湿

数（T-Td）分布を重ね合せた図です。09時の赤外画像には、八丈島の南東～台湾の東に「ハテナの雲」と称されて



ている丸い形状の雲域A～Dがほぼ等間隔に並んでいます。4つの雲域は、輝度温度から雲頂高度が約500～380hPaの中層から上層の雲と推定され、中層雲は東北東へ90～120kt、上層雲は110～140ktで移動していました。これらの雲域は、鉛直方向に回転軸を持ったK-H波によって生じた渦列なのか、衛星画像と数値予報から調べてみました。

第1図の05時の図を見ると、A～B～Cの東西にのびる帯状の雲域があり、その北側の東シナ海～四国沖には700hPaで寒気移流に対応した湿数12℃以上の乾燥域が広がっていました。この乾燥域は、一部が帯状の雲域と重なっていました。07時になると、帯状の雲域がA,B,C,Dの4つの雲域の連なりとして認められるようになり、AとB、BとCの間には雲の少ない領域

第1図 2016年1月24日05時、07時、09時の日本の南海上の赤外画像とLFMによる700hPa面の湿数分布図
 水色線が湿数12℃以上の領域で、同18℃以上の領域をハッチで表示。07時の黄線は400hPa面の等風速線（30kt間隔）、赤線は同面の等温線（3℃間隔）、緑破線については第2図参照。記号A～Dについては本文参照。LFMの初期値はそれぞれ03時、06時、09時。

が生じました。この雲の少ない領域は、700hPaの乾燥域の拡張に伴って生じているように見えました。09時には、4つの雲域が孤立して「ハテナの雲」になりました。

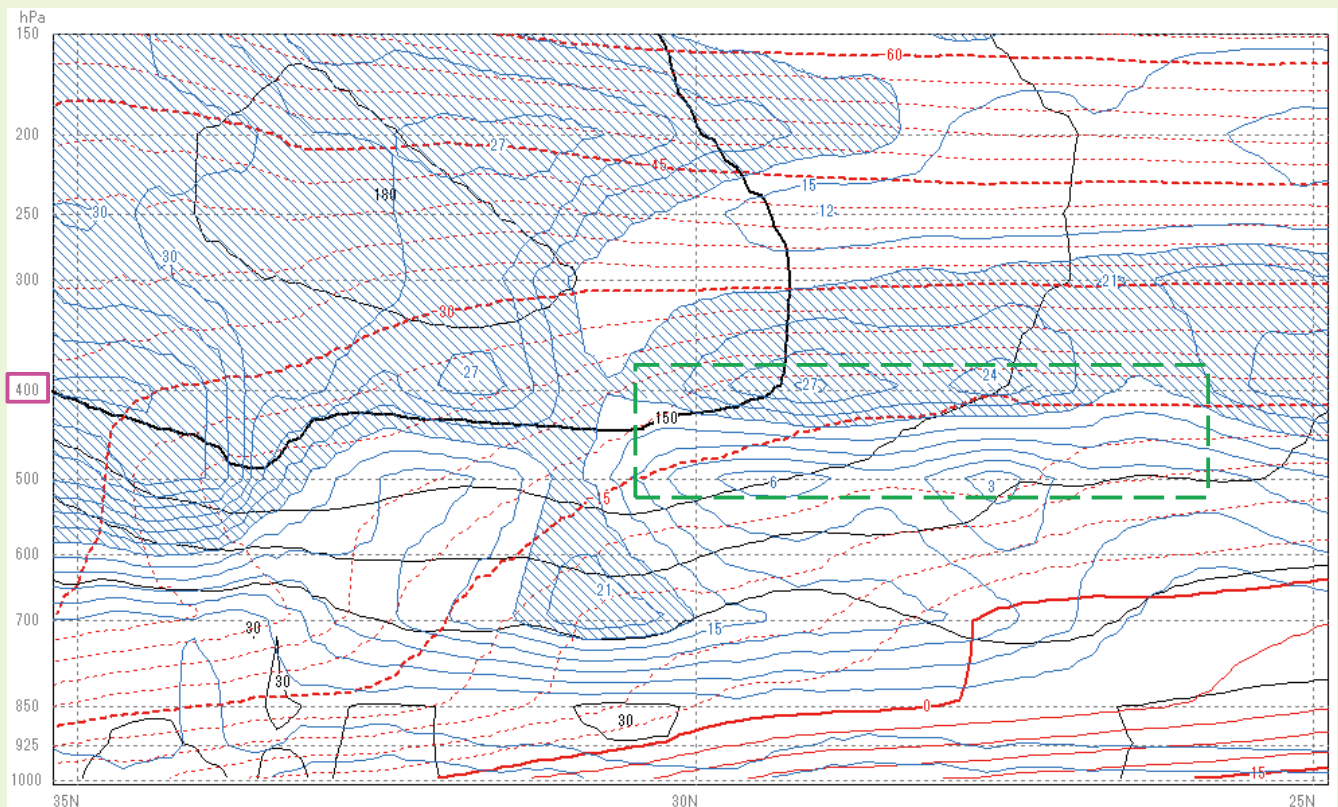
ここで第1図の07時の図中にある赤紫破線に沿った断面図（第2図）を見てみましょう。北緯27～30度の高度500hPa付近に相対的に湿潤な層が存在しており、これが帯状の雲域に対応するとみられます。第1図の乾燥域に対応するものは、北緯31度付近の高度700～600hPaを中心にみられ、湿数12℃以上の範囲は北緯28度付近まで広がっていました。つまり、第1図に見られた乾燥域は、帯状の雲域の下に侵入していたことがわかります。また、第2図では、帯状の雲域に対応する相対的な湿潤層の上方の高度約400hPa付近にも、厚さ約100hPaの乾燥した（湿数18℃以上）層がみられます。

結局、帯状の雲域は、高度500hPa付近に発生した層状雲とみられますが、その上方を高度400hPa付近の乾燥した気層で覆われ、下方の高度700hPa付近にも北から乾燥空気が侵入していました。しかも、これら上下の乾燥した気層は、帯状の雲域の北側の北緯31度付近でつながっていたことを第2図は示しています。

第1図の07時の図で、400hPa面（帯状の雲域の雲頂付近に相当）の風速と温度の分布を見ると、雲域A～Dの領域は、等風速線（黄線）から強風軸の南側に位置していますが、等温線（赤線）の間隔は、強風軸周辺と比較すると開いています。また、第2図に緑破線で示した矩形は、雲域Aと雲域Bの中間付近における層状雲の上部に相当しますが、そこでは水平方向の温度傾度が小さく、等風速線も混んでいません。LFMの400hPa面における雲域A～D領域の水平ウィンドシアアは、10km移動すると1.6ktの風速差がある程度で、K-H波を発生するような場ではありませんでした。

以上のことから、09時に見られた丸い形状の雲域A～Dは、高度500hPa付近に発生した層状雲が、上方を高度400hPa付近の乾燥した気層に覆われ、北方に厚い（400～700hPa）乾燥した層が存在する中で、下方に北から乾燥空気が侵入することにより、雲層の厚さが薄くなりながら北縁がえぐられる過程で「偶然」等間隔に並んで見えたもので、K-H波によるものではないと考えられます。

謝辞：今回の回答にあたっては、西村修司氏（気象庁）に協力していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



第2図 2016年1月24日07時のLFMによる断面図
断面は第1図07時の赤紫破線に沿ったもの。青線の湿数は3℃間隔で18℃以上の領域をハッチで表示。赤線は等温線（3℃間隔）、黒線は等風速線（30kt間隔）。LFMの初期値は06時。緑破線については本文参照。

地方公共団体の防災対策支援のために求められる 気象予報士の能力とは何か？

岩田 修(専務理事・幹事長)

気象庁の「地方公共団体の防災対策支援のための気象予報士活用モデル事業」として、平成28年6月1日から9月30日迄の4か月間、全国6カ所の自治体に本会会員でもある6名の気象予報士が派遣されました。

地域レベルでの気象防災の充実が叫ばれるなか、本事業が自治体にとってどのような効果があったのか、そして我々気象予報士が各自治体でその能力を生かすには何が必要なのかについて、実際に本会前会長で顧問である酒井重典さんが派遣されていた自治体である、茨城県龍ケ崎市の中山市長と出水田危機管理監にお話を伺いました。

インタビュー 龍ケ崎市役所 出水田 正志 危機管理監

— 最初に、そもそも龍ケ崎市の気象上の特性をどう捉えられていますか。

出水田— 大雪が降るとということもなく、年間降雨量も1,000～1,500ミリぐらいの平均的な所で、全般的に温暖で穏やかな気候だと考えています。防災上の観点から言うと、昭和56年8月24日に、龍ケ崎周辺の豪雨により、利根川に注ぐ支流である小貝川の決壊がありました。平成26年2月、ちょうど山梨で豪雪があった年にはこちらでも30センチメートル近くの積雪を観測し、完全に道路が雪で埋まってしまいました。私たちは雪国ではないので、除雪車もなく、現有のものでなんとか対応しましたが、大変苦労しました。このように油断はできません。



出水田危機管理監

— 今回、気象庁で全国6カ所の自治体さんをピックアップして、そこに気象予報士が派遣されるということになったのですが、その一つに選ばれるに当たって、何かこちらから提案されたといったことはあったのですか？

出水田— それは全くございません。龍ケ崎市がその6カ所の市町村に選ばれた理由を推測すると、その第一段階として、鬼怒川の洪水など、県単位で被害があった県が選ばれたのではないのでしょうか。そして第二段階として、龍ケ崎市は災害の対応が迅速であると認識され、私たち危機管理室は市長直轄の組織で、危機管理監以下10人で、ハード面・ソフト面で非常に充実した危機管理体制になっていることが評価されたのかもしれない。また、水戸地方気象台との密接な関係も評価されたのではないかと推測しています。

— 水戸地方気象台とは、今までどれぐらいの頻度でコミュニケーションを取られていましたか？

出水田— 気象が悪くなって警報が発表された際、細かな気象情報の連絡交信を電話で行っていました。平常時でも、副市長が伺ってごあいさつしたり、防災気象情報についてコミュニケーションを図るために行くことがありました。酒井さんが来られてからは、関係が更に近くなりました。酒井さん

ご自身も、龍ケ崎市の気象予報を水戸地方気象台のほうに電話で確認することもありました。気象台と更なるコミュニケーションを図っていただきたいという思いもあったようで、私たちも何度か連れて行ってもらう機会を作っていただきました。

— 6月から9月末まで4か月間、酒井さんが派遣されていたわけですが、まず、酒井さんの派遣を受ける前に思われていた事や、今だからこそ言える、実はこういうびくびくがあったとか、こういうことを危惧していたとか、何かあればお願いします。

出水田— 私たちは、全国6カ所の市町村に選ばれたのだという思いが非常に強かったです。気象予報士の方に対して、これは気象庁にもなるかもしれませんが、市町村にとってどのような気象情報が必要なのかということ、思い切っつけてぶつけていきたいという気持ちのほうが強かったです。この願ってもないビッグチャンスをいかに自分のものにして事業を成功させていくか。それは、自分たちのことだけではなく、茨城県内市町村の看板を背負っている代表選手だという思いが強くありました。

— 実際に酒井さんがいらっしゃったわけですが、この4か月間の大まかな組織的経緯と、職員の方々の気持ちの変わりようをお聞きしたいと思います。まず組織的にはいかがだったでしょうか。

出水田— 平成28年の夏は台風が発生が遅く、7月の初め頃まで比較的穏やかな気候で、防災情報に直結するようなことがあまりありませんでした。このため、6月から8月までの間は、平常時の役割の中で、気象庁が出している防災気象情報提供システムを土台にしなが、毎日の気象情報の解説をしていただきました。われわれが知っておかなければならない共通事項を一つ一つ丁寧に解説しながら教わりました。

当初、危機管理室の側も酒井さんへの遠慮もあり、出足はあまりよくなかったのですが、2週間ぐらいたら、みんなが楽しみにして酒井さんのもとに集まってくる状況に変わりました。酒井さんご自身も、4か月間の中で何かを教えて、何かをここに残していかなくてはならないという使命感も多分あったと思います。危機管理室職員にもよく伝わっていたし、非常に分かりやすく面白い解説をしていただいたので、ぐっとレベルも上がってきたのだらうと思います。

8月以降は、台風が多く来て、何度も災害対策本部を立ち上げた経緯がありました。避難準備情報2回、避難勧告1回を発令したのですが、酒井さんに今後の龍ケ崎市への予想降雨量等や龍ケ崎市の地形、気象の特性に応じた災害発生見積等の助言をしていただき、市長の状況判断、避難情報発令



市災害対策本部

への決心につながりました。酒井さんは、警戒間終始、災害対策本部におられ、24時間対応で気象分析や解説をして頂きました。

その他、各部の市役所職員についても防災気象の土台となるような気象解説を定期的に行っていたり、また、小学校や中学校や関係防災機関等にも延べ29回足を運んでお話を



馴染小授業

していただきました。平常時から、緊急時まで、本当に幅広く、市の防災活動の向上に貢献していただきました。

酒井さんは人を育てることを強く思っていました。最後の1カ月間は、それまでとは違い、今度は酒井さんに代わり危機管理室の者が交代で毎日の気象解説を行って、それに対する助言や補足をしていただきました。そしてそれが職員が切磋琢磨しつつ今でも続いています。

— 酒井さんは人を育てるのが大変好きですし、お得意な方で、この気象ブリーフィングは大きな文化として残せていたものだと思うのですが、割とスムーズに入って来ましたか？

出水田— 非常にスムーズに入って行けたし、受け入れてもらったと酒井さんもおっしゃっていました。危機管理室の職員という感じで、本当に溶け込んでいらしたし、危機管理室職員は酒井さんのことをお友達、お父さんといった感じで思っていたのではないかと思います。それは酒井さんのご人徳だと思います。酒井さんはお話を聞くのがすごく上手でした。どんな質問も全部受け入れてくれる、ブロックすることは全くない。気象という自然現象をグローバルに地球全体でみている気象予報士とはこういう方々なんだろうと思いました。

— 国の方針や方向性で、また気象予報士の有資格者が市に対してアドバイスをするといったことがあると思います。そういうものに関して、どのように思われますか？

出水田— 私たち市町村の職員は、気象予報のプロではありません。天気図を見て、的確に防災に直結する気象予報の判断を行うのは限界があります。気象予報士の方が市役所に入り、気象情報を解説し、地域の特性を踏まえながら災害発生を予測した助言をいただけることは、防災・減災に非常に大きな効果だと思います。もし、今回の気象予報士の派遣の延長線の話として、ご助言をいただけることは大変ありがたいと思っています。

— 具体的にはどんな助言が欲しいでしょうか？

出水田— 梅雨時や台風が発生する6月から10月ぐらいに、龍ヶ崎市の地域特性に合った、気象情報を解説し降雨量や風の強さ等による災害発生見積もりを行い、過去災害のことも踏まえたご助言をいただければと思っています。さらには、気象が農作物に与える影響や、感染症の発生や感染に及ぼす影響など市民生活に与える影響等を助言して頂ければと思います。

— 10名の職員の方々にとって、酒井さんがいらっしゃる前と、最中と、いなくなった今と、特にその防災の考え方や日頃

の仕事の仕方等に何か変化はありましたか？

出水田— 酒井さんの毎日の気象ブリーフィングや、また懇談の場を通して、危機管理室のコミュニケーションが深まり、団結が強化されたことがまず一つです。



「本日の気象解説」危機管理室

また、防災上では、毎日の防災情報提供システムを使った気象ブリーフィングで気象予報解説能力の芽が育ちました。龍ヶ崎市には、小貝川と利根川が流れ、土砂災害警戒区域が何か所かありますが、降雨量等がこれら小貝川や土砂災害警戒区域等にどう影響するかを思いながら気象を見ていく芽が出てきました。また、人にとって気象情報は生活していく上で一番重要な情報になりますが、気象情報を読み解き、活用していく芽を出していただきました。

気象の本も4、5冊、置いていただき、その中に気象予報士の受験の参考書がありました。ひょっとしたら、密かに、気象予報士試験合格を目指して勉強している職員がいるのかもしれない。

— 今回は期間限定でしたが、今後に向けて、国や気象庁、あるいは気象予報士に対して要望はありますか？

出水田— 私は気象情報は、天気を予報するだけではなく災害発生見積もりにまで踏み込まなければならないと思います。情報資料を市町村長が判断決心できる情報にしなければならないと思います。例えば、「降雨量が100ミリの予想です」ではなく「降雨量が100ミリであり、市内土砂災害警戒区域に夕方以降、がけ崩れの発生が予想されます」とした使える情報にしなければならないと思います。

次に、気象予報の正確性の向上です。大雨警報や土砂災害警戒情報にしてもピンポイントで発表ができると、空振りも少なくなると思います。あまり空振りをすると、市役所も相当体力を使ってしまったり、職員のモチベーションも下がってしまうのも現実です。気象予報士の方には、災害発生の見積もりまで踏み込んでいただきたいと思っています。気象庁が発表する気象情報は精度が向上していると思いますが、更なる精度向上をお願いしたいと思います。

インタビュー 龍ヶ崎市 中山 一生 市長

— 市長から自治体の長というお立場で、今回のモデル事業が終わったということ踏まえ、市・県・国レベルでの地域の防災に関する考え方やご提言、苦言をいただければと思います。

中山— 危機管理監を採用して5年目に入り、防災の備えの強化はかなり進んだとは思いますが、それでもなお、今までは考えられないような気象災害が繰り返し報道されている状況もあります。龍ヶ崎市の場合は幸い土砂災害警戒区域が限られていますが、なぜか近年は、この辺りに台風が接近するピークが、



中山市長

深夜から未明に多くなっていました。なるべく早い明るい時間帯に避難の誘導をするためには気象予報が大切になってきますので、水戸地方気象台には危機管理室からかなり緊密な連絡を取っていたと思います。

そのような中で、本年度になって酒井さんが来てくださいました。4カ月という短い期間でしたが職員がかなりスキルアップをし、次に気象台に話を伺うときには、前よりも数段深い意味で気象台からの情報を受け止められるような環境ができたと思います。また、避難準備情報2回と避難勧告1回を発令したのですが、私自身、今まではかなり迷いながら発令していたのが、避難情報を発令するならこしかなないというような、かなり確度の高い形で避難準備情報と避難勧告を発令できたと本当に強く感じました。

われわれは、気象予報士が自治体に指導してくださる体制のありがたさを体験することができましたので、何らかの形でこの体制は継続していけたらいいのではないかと考えています。龍ケ崎市は8万人都市ですが、この規模の中小自治体の数は多いですし、今回のモデル事業は、ある一つの示唆を与えてくれたのではないかと思います。

— 今回全国6カ所を選ぶにあたって、受け入れ体制があるからこそ選ばれたということもあったのではないかと思いますのですが、そういうことも踏まえて、今後の地域の防災の姿に対しての国や県への要望はございますか。

中山— 広域的なものか、複数の自治体があたかもいいと思いますが、そのエリアを担当する、例えば気象予報士がいて気兼ねなく相談できるような体制が平素からあれば、自治体の防災担当の職員はもちろん、首長が判断を下すときの貴重な情報源になると思います。また、水戸地方気象台から情報を得るにしても、専門的な知識で気象予報士がいつでも相談できる体制にあるのは、あるべき姿なのではないかと思っています。

— 何人かの方は、一個人でも気象予報士を受験されるのではないかとといううわさも伺いました。

中山— 気象予報士の資格は取られていても、その資格を生かしていない方が龍ケ崎市にもいらっしゃるようで、そういう人たちが刺激を受けたような話も伺っています。経験を積んだ気象予報士さんのアドバイスは大切だと思うので、そういう方々も、そのライセンスも生かしていただければいいと思います。茨城県日立市役所に、気象予報士にチャレンジして資格を取得した職員がいらっしゃり、天気相談所等を開設して活躍されていることは承知しています。ぜひ、龍ケ崎市役所でも、酒井さんの教えを受け継ぎ、気象予報士にチャレンジしてくれることを期待しています。

— 最後に、龍ケ崎市はこういう素晴らしいまちだと、今後も発展していくのだということも含めて、市長からお言葉をお願いします。

中山— 龍ケ崎市は、伝統的で魅力的な建物や行事もあり、歴史の力は非常に大きな龍ケ崎の原動力の一つになっています。災害に関しては、かつて水害の歴史が繰り返されていたのですが、ここ40年近くは大きな水害もありません。河川の

堤防の強化などもありますので、災害の少なさを誇れるまちだと思います。気候も穏やかですし、土砂災害の警戒区域も、急傾斜地対策の事業を国と県と市、そして地元の住民も協力して着々と進めていますので、そのエリアもだんだん狭まっていくと期待しています。その上で、気象災害については気象予報士、そして水戸地方気象台とも密接に連携を取りながら犠牲者ゼロを目指していくという確固たる信念のもとで進めています。安心安全なまち、大変暮らしやすいまちということで、ぜひ龍ケ崎市を住まいの候補にいただければと思います。

— 私共日本気象予報士会では、全国の会員個々が自分の生まれ育った場所や自分が縁のある場所の防災に何か役立つことはできないだろうかと考えています。そのモデルとして今回、自分に置き換えたときに、まだ自分自身、力不足だというのはもちろん分かった上での話ですけれども、何かできないかと模索をしているのが今の状況だと思います。今後とも自己研鑽に努め、気合を入れて勉強していくことを啓発させていきたいと思っています。

中山— 酒井さんも、やはり専門家としての領域を超えないというのでしょうか、プロフェッショナルで、最終判断をこちらが迷うこともありますけれども、その最後、足を踏み出すときに背中を押すようなことは決してしませんでした。自分で足を出すときの、足を出すべき方向を決めるのに必要な情報は与えてくれました。ですから、少し不安なときもあったのですが、だんだん付き合っていると、酒井さんの言わんとすることがこちらでも分かるようになってきました。以前は大きな振幅のどこかで判断をしないといけなかったのが、その振幅がかなり狭まりましたので、これ以上、心強いことはありませんでした。やはり、自治体の長にはこの感覚を実際に体験してもらいたいです。そうすると、自治体の長としては本当に力強い応援になるのではないかと思います。

— 災害の少ない街「龍ケ崎市」、素晴らしいですね。個人的にまた1か所、将来住みたい街に出会えました、本日はありがとうございました。

インタビューを通じて、我々気象予報士が地域防災に関して求められるものが大きい事が理解できました。気象予報士に求められる事は、気象予報の高い技術はもちろんのこと、自治体や住民の方々とのコミュニケーションを通じて、人を育て、組織力を強化する事も重要であると認識しました。

本会としては、気象予報士として地域防災の場で活躍できる人材の育成を行うために、現在の気象技能講習会、コミュニケーション能力の向上など、新たな自己研鑽の場の提供が重要と考えており、次年度に向けた検討課題と認識しています。

ちなみに気象庁では、平成29年度に「地域防災力強化の支援」として、「気象予報士等に対する研修プログラムの作成、実施」を計画しており、地方公共団体の現場において即戦力となる人材を育成し、地方公共団体における「気象防災の専門家」の活用を推進することを目指しているとのこと。本会としてもこの流れに積極的に関与できればと考えております。



『鹿児島支部設立10周年記念例会』を開催

渡司 陵太(鹿児島)



記念例会での集合写真

鹿児島支部は2016年12月で設立10周年となり、12月10日(土)に『鹿児島支部設立10周年記念例会』を開催しました。記念例会は西部支部との合同開催で、鹿児島地方気象台のご協力もあって、32名もの方が集まりました。

■ 鹿児島支部のこれまで

鹿児島支部は右記の通り、2001年に有志の気象予報士が集まったことがきっかけではじまり、2006年に支部が設立されました。

鹿児島地方気象台のバックアップ、テレビ局や新聞社の気象予報士・キャスターの協力的な参加を受けて、お天気フェア、気象サイエンスカフェ、気象技能講習会、防災プロジェクトなど少しずつ活動を広げてきたところです。気象台には鹿児島支部担当の職員が必ずいるというのも、活動を続けるうえで大きな強みとなっています。

■ 設立10周年記念例会

記念例会では、はじめに竹山初代支部長と森支部長が支部の10年を振り返りました。鹿児島地方気象台・



10年の歴史を語る森支部長

里田弘志台長による記念講演では、地球温暖化に関する見解や世界会議の様子が話されました。また参加者からの話題提供は、イギリス防災留学、レーダーを活用した鹿児島大学の研究、平成18年県北部豪雨でのダム運用など、深い内容のものばかりでした。また祝賀会にも多くの方が参加し、支部の思い出話や鹿児島グルメを楽しみました。

■ 次の10年に向けて…

これから鹿児島支部では、市民啓発活動や見学会など支部としての活動をさらに充実させていく所存です。会員ひとりひとりが「日本気象予報士会に入って良かった」と思えるような場所づくりを行っていきたいと考えています。今後の活躍にご期待ください。

■ 鹿児島支部の歴史

- 2001年6月 鹿児島県気象予報士顔合わせ会 発足
- 2001~03年 有志の集まりとして見学会、交流会などを開催
- 2004年 鹿児島地方気象台次長・金崎厚さん(当時の西部支部支部長) 赴任
2ヶ月に1回の定期例会がはじまる
- 2005年 鹿児島地方気象台台長・下山紀夫さん(現 本会顧問) 赴任
支部設立を強く働きかける
- 2006年6月 本会総会にて支部設立承認
- 2006年12月 鹿児島支部設立総会(西部支部合同開催)
初代支部長に元航空自衛隊・竹山和巳さん 就任
- 2009年8月 気象台お天気フェア
NHK鹿児島放送局で開催され民放も含む全気象キャスターが参加
- 2010年8月 全国高校総体(インターハイ)登山競技協力参加
- 2014年2月 気象サイエンスカフェ in かがしま 初開催
(鹿児島地方気象台、日本気象学会九州支部 共催)
- 2014年6月 2代目支部長・森雅宇さん 就任
- 2015年3月 さつま防災プロジェクト発足
- 2015年5月 離島などの会員向けに例会の動画配信を開始
- 2015年7月 桜島・錦江湾横断遠泳大会 予報協力を開始
- 2015年11月 気象技能講習会 初開催
- 2015年12月 沖縄支部設立を記念した九州・沖縄ブロック合同例会(那覇)
- 2016年5月 気象台とメディア関係者の懇話会 準備会開催
- 2016年10月 例会に日本防災士会鹿児島県支部が参加
- 2016年11月 さつま防災プロジェクト初講演
- 2016年12月 鹿児島支部設立10周年例会(西部支部合同開催)



2016年4月例会のお花見懇親会

東北支部秋の新規合格者案内会報告

氏家 尚宣(宮城)

平成 28 年 11 月 5 日 (土) 13:30 より、仙台市宮城野区市民センター第 2 会議室にて 11 月例会を兼ねた日本気象予報士会東北支部秋の新規合格者案内会が開催されました。当日は初参加の 2 名を含めた 15 名での実施となりました。

案内会では岩渕副支部長の挨拶の後、出席者全員から自己紹介・近況報告、ブロック理事の氏家から日本気象予報士会全体の説明、東北 6 県各気象台でのお天気フェアのお手伝いや全国各地の気象関係者が集う春のさくらんぼ狩りや秋のいも煮ぶどう狩りといった東北支部の活動の説明が行われました。

案内会後の例会では

◎「7月31日に福島空港で観測された雲について」

長尾修会員

◎「台風18号による岩手の被害について」

齊藤久昭会員

◎「ラジオ天気図を書いてみよう」 斎藤幸宏会員

といった 3 つの話題提供が行われ、ラジオ天気図用紙に向かって出席者全員が頭と手を動かし出来栄のよかった方々から作図のポイントの発表が行われました。

今回、初参加された方々の感想を紹介します。

● 柿本弘之さん

『以前より、参加したかったが、今回参加できうれしく思います。会員へ登録して貢献したいと思っています。』

● 内藤安太郎さん

『初参加ですが暖かく迎えて頂き感謝です。定年退職後の独学で資格取得できましたが、まだまだ知識不足です。これからも学習を継続します。今日、会議の中で飛びかう専門用語を含め、話の内容になんとかついていけている自分に幸せを感じております。』

今回も東北支部では新たな会員を迎えることができました。会員数の少ない東北支部ですが、例会には他支部からも運んでくださる方々が多く、良い意味での刺激を受けております。今後も魅力のある支部運営を続けていきたいと思っております。



東海支部第 232 回例会・案内会報告

関谷 不二夫(三重)

東海支部の 11 月例会で新規合格者案内会が 11 月 19 日 (土) にイーブルなごやで開催されました。新規合格者 3 名の方の参加があり、案内会では楨野支部長の挨拶



に続き、日本気象予報士会及び東海支部の活動内容などの紹介などが行われました。

また新規合格者 3 名の方にも自己紹介をしていただきました。日本気象予報士会の活動

に期待するコメントもいただき、今後の支部活動の励みになりました。

■ 参加者コメント

● 辻航平さん

日本気象予報士会の活動内容について理解できました。様々な経験をされている方同士で意見交換をする事で、気象について多角的な見方をする事が出来、新しい発見ができると思いました。

● 立若洋輔さん

和やかな雰囲気気象予報士の良い交流の場だと思いました。自己研鑽の場として、私も活用させて頂きたいと考えています。

● 尾崎幸克さん

気象予報士試験に合格したあと、この先どのように気象の勉強をやるか、どうやって資格を活用しようか不安に思っていました。たくさんの仲間がいること、楽しく活動できそうなことを感じ、わくわくしました。



第98回広島県支部例会・案内会報告

坂本 捷典(広島)

広島県支部第98回例会・新規合格者案内会が新規合格者1名を含む10名で、10月29日(土)に広島市西区民文化センターで開催されました。いつもの例会とは違い、女性の方が4名参加され久しぶりに華やかな雰囲気、こちらの目も楽しませていただきました。

【内容】

① 事務連絡

11月26日(土)開催の支部連絡会議、12月10日(土)開催の第99回例会および2月18日(土)開催の第100回例会についての話し合いを行いました。

② 2016秋の案内会

第46回気象予報士試験に合格された、塚原美緒さんを迎えて参加者の自己紹介から始まり、日本気象予報士会及び広島県支部の活動内容などの紹介を行いました。

③ 出前講座

「警報級の可能性」など新しい気象情報の提供に向けて：広島地方气象台、平野観測予報管理官

気象庁が自治体・関係機関に対し説明した資料に基づいたもので、5つの改善点について具体例に基づき、分りやすく説明されました。基本的理念は、「可能性が高くなくとも発生の恐れを積極的に伝えていく」と「危険度やその切迫度を認識しやすくなるよう、分りやすく情報を提出」の二つです。

④ 話題提供

「Qプロ“大雨防災ワークショップ”について」：
西部支部、永田さん

西部支部Qプロで行っている“大雨防災ワークショップ”について、開催する際のポイントなどを実例の動画等を駆使されて、時には冗談を交えて紹介されました。

今回の例会の講演も災害に関する事多く、塚原さんも興味深げに聞いておられました。

● 塚原美緒さんのコメント

気象予報士の資格を取ろうと思ったのは、2年前の広島土砂災害がきっかけでした。私は、新聞社の秘書をしていますが、記者の方々が一生懸命仕事をされてるのを見て、私にも何かできないかと思ったわけです。



左上から
渡辺、中野、永田、
坂本、杉原、塚原、
熊谷、吉田

西部支部案内会報告

永田 統計(福岡)

11月12日(土)に新規合格者2名と例会初参加の1名を迎えて、福岡管区气象台を会場に西部支部第220回例会・案内会を行いました。参加者全員の自己紹介から始まり、続いて日本気象予報士会全体の説明と西部支部の活動説明を行いました。その後は福岡管区气象台の糸永予報課長の講演あり、气象台現業室見学あり、会員の話題提供ありと盛り沢山の内容でした。

■ 参加者の声

● 歌丸義行さん(熊本)

気象に興味があり、仕事の合間に勉強しながら15年以上挑戦し続け、ようやく合格することができました。色々な人が気象予報士という共通点でつながり、様々な活動をされていることが分かりました。また、マラソン仲間もたくさんいたのは驚きでした。今後、色々な講座にも参加して知識を深めていきたいと思えます。

● 播磨俊二さん(福岡)

緊張を胸に向かいましたが、歓迎して頂きありがとうございます。案内会での气象台見学や話題提供、懇親

会での気象とマラソン談義など有意義な時間でした。これから知識向上と社会貢献できるよう日本気象予報士会の参加を楽しみにしています。

● 清水義行さん(福岡)

气象台の方による講話や機器の説明を拝聴し、気象の見識をより広げることができました。懇親会は夕日が見事なオシャレなレストランで皆様と楽しい時間を過ごすことが出来ました。今後ともよろしく願いいたします。



日本気象学会 2016 年度秋季大会スペシャル・セッション開催報告

「気象情報の活用および気象講座・気象教育」

岡田 登志恵(常務理事・学術担当幹事)

日本気象学会 2016 年度秋季大会が 10 月 26 日（水）～ 28 日（金）に名古屋大学東山キャンパスで開催されました。最終日の午後に日本気象予報士会東海支部の会員が世話人となり、「気象情報の活用および気象講座・気象教育」をテーマにスペシャル・セッションを行いました。

気象予報士を中心に 18 名の発表があり、参加者も 150



会場の様子



名を超える大盛況でした。防災の研究結果、防災啓発や防災教育など気象予報士の役割等について、活発な質疑応答が行われました。

セッション終了後、名古屋大学近くで行った打ち上げには、東海支部ほか各地から会員の皆様が駆けつけ、大いに盛り上がりました。発表者・

聴講参加の皆様、開催に際しお世話になった皆様、ご協力ありがとうございました。

2017 年度の日本気象学会大会は、春季大会が 2017 年 5 月 25 日（木）～ 28 日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）で、秋季大会が札幌で開催が予定されています。秋季大会では 2017 年度も日本気象予報士会でスペシャルセッションを企画する予定です。ぜひ 2017 年度もご参加ください。



発表の様子



大西会長の終了挨拶

発表者等

- 座長 多々良秀世（日本気象予報士会）
與語基宏（日本気象予報士会）
- 発表者、演題（発表者のみ記載）
- ① 小林高枝（名古屋地方気象台）
「クロスロード防災気象情報編による防災啓発支援」
- ② 荒川知子（田園調布学園中等部・高等部）
アクティブ・ラーニング型気象教育による防災意識の向上（2）
- ③ 安達史典（愛知県建設部河川課）
災害避難カードを活用した水害に対する地域主体の取組の試行について
- ④ 植松久芳（日本気象予報士会東海支部）
～適切な避難行動のありかたについて～
- ⑤ 若月泰孝（茨城大学理学部）
広島豪雨における気象防災情報の伝達と避難行動に関する現地調査
- ⑥ 龍山康朗（RKB毎日放送）
放送メディアが試みる「防災情報が伝わる工夫」
- ⑦ 岡田みはる（ウェザーマップ）
テレビの天気予報に天気図が登場することの大切さ
～防災の観点から～
- ⑧ 内山常雄（日本気象予報士会）
健康被害を防ぐための気温情報の提供
- ⑨ 土井修二（日本気象予報士会）
地方在住予報士の気象情報活用法
- ⑩ 横野泰夫（日本気象予報士会）
聴覚障がい者への気象防災講座
- ⑪ 大矢康裕（ウェザーフロンティア東海、日本気象予報士会）
山岳防災における DIG（災害図上訓練）の活用について
- ⑫ 安福英俊（神戸市灘消防署）
消防機関における気象情報の活用事例と気象教育への提言
- ⑬ 小池佳奈（エムティーアイ）
「3D 雨雲ウォッチ～フェーズドアレイレーダ～」
アプリによる実証実験 2 年目
- ⑭ 滋野哲秀（龍谷大学）
スマートフォンを活用した気象知識の普及について
- ⑮ 吉川契子（静岡県立清水西高等学校）
高校「地学基礎」気象分野の指導上の工夫
- ⑯ 加藤内蔵進（岡山大学大学院教育学研究科自然教育学系理科教講座）
降水の『質』の多様性や季節サイクルの中での広域気団分布にも注目した日本の梅雨に関する中学校での授業実践
- ⑰ 関谷不二夫（日本気象予報士会）
子供たちに天気を楽しむを教える
- ⑱ 奥村政佳（横浜国立大学）
気象情報を利活用した気象・防災教育の取り組み
～アイコンで構成された天気予報・注意報警報アプリケーションの開発～

ジェットコースターのようなCOP22だったが、期待された成果を上げた！

小西 雅子(神奈川)

乾燥した大地にラクダが悠然と歩くモロッコ・マラケシュ。温暖化対策の国際約束「パリ協定」の記念すべき第1回会議が、2016年11月7日から18日までこのマラケシュで開催されました。パリ協定とは、深刻化する一方の温暖化を抑えるために、産業革命前に比べて気温上昇を2度未満に抑えることをめざして、今世紀末に人間活動による温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを掲げた画期的な国際条約です。この「パリ協定」は、2015年末に採択されてから、オバマ大統領率いるアメリカや中国、インドまで参加する！と表明したことによって、国際条約の歴史では非常に珍しく、たった11か月で発効しました。これは世界が温暖化対策にける意気込みを表す画期的な出来事でした。

パリ協定発効のお祝いムードで始まったCOP22（第22回国連気候変動枠組条約及び第1回パリ協定締約国会合）でしたが、会期2日目に、アメリカ大統領選挙の結果がわかり、温暖化対策に否定的なトランプ政権が誕生することとなって、一気に冷や水を浴びせられました。「温暖化は中国が作り上げたでっち上げ」とまで選挙キャンペーン中に豪語していたトランプ政権の誕生は、パリ協定にとっても大きな懸念材料となったのです。会場の雰囲気は、お祝いムードから一気に暗雲がたちこめる、ジェットコースターのような展開となりました。

しかし、結論から言うと、COP22における交渉にはトランプ政権誕生のニュースはほとんど影響なく、COP22は本来期待されていた成果をきちんとあげて閉幕しました。もともとCOP22に期待されていたのは、パリ協定のルール作りの作業計画が明確な終了期限を持って具体的に決まること。そしてパリ協定をまだ批准できていない

国を含めてすべての国がルール作りに参加できるようにすることでした。2週間の交渉の結果、COP22において開催されたパリ協定第1回締約国会合（以降CMA1と呼ぶ）は一旦中断の手続きを取って、2018年のCOP24までに、パリ協定のルール作りを完了させて、その時に再開するCMA1においてルールを採択

することが決まったのです。つまり、パリ協定は必要なルール作りを2018年までに終えて、2020年に始動する準備が整うことになったのです！

■ パリ協定のルール作りの作業計画軌道に乗る！

パリ協定は、世界のすべての国が参加して、温室効果ガス排出ゼロをめざすという素晴らしいコンセプトの国際約束ですが、実はどうやって目標を達成していくかの具体的なルールはまだ決まっていません。COP22では、いかにそのルール作りの作業計画が詳細に決まるかが勝負だったのです。国別目標としてどんな情報を出すべきか、どうやって各国が目標を達成しているかを見ていくかなど、決めるべきルールは京都議定書の時よりもたくさんあります。そのルール作りが項目ごとに意見提出やワークショップなどの予定が決められて、今後の作業計画が具体化されたのです。京都議定書のルール作りが4年もかかったことを思うと、はるかに複雑なパリ協定のルール作りを2018年までに終了させる、と決めたことはなかなか野心的です。こうしてルール作りが軌道に乗って、締切をもって作業計画が作られたことで、パリ協定はより強固になったと言えるのです！

■ 温暖化対策は大きなビジネスチャンス

アメリカの大統領選挙の結果で冷や水を浴びせられたCOP22でしたが、パリ協定がすでに発効した今、条約交渉の段階は終わっており、パリ協定をいかに実施していくかの次のステージに入っています。すでにアメリカ企業も含めて、世界の企業は低炭素化へ向けて舵を切っています。COP22では、これまでのCOPでははじめて、隣のサイドイベントの会場がまるで産業見本市、再エネ・省エネ博覧会といった様相を呈しており、世界のエネルギー機器メーカーやエネルギー事業者、銀行などの投資機関などが出展し、競って売り込みを繰り返していました。再エネ100%を掲げる企業グループや、科学をベースにした目標設定を約束する企業グループが声明を発表したり、投資を呼びかける金融グループがあったり。温暖化対策がもはや環境配慮のためだけに存在しているのではなく、世界の企業が大きなビジネスチャンスとしてとらえている様子が実感をもって伝わってきました。

私たち気象予報士にとっても、異常気象に関連するビジネスや再生可能エネルギー予測技術など様々な気象関連のニーズがますます広がってきます。心して臨んでいきたいものですね！なお、パリ協定についてもっと知りたい方は、ぜひ小西雅子著「地球温暖化は解決できるのか〜パリ協定から未来へ〜」（岩波ジュニア新書）をお手に取ってみてください！



マラケシュのラクダ



COP22会場

2016年度気象技能web講習の開講

2016年度の気象技能web講習は、新装して開講中です。2016年12月末現在、およそ300名の会員が利用しています。また、気象技能web講習は、気象予報士CPD制度のポイント付与の対象となります。会員の皆様は奮って御参加ください。

スキルの維持や再確認に貴重な機会である。
また、会場に向いて参加できない地方の気象予報士としては有意義な手法である。

昨年度の
受講者からの
声

会場での講習会の復習として非常に有効。
技能維持のために隙間時間を利用することができる。

理解できなかった所を繰り返し視聴して確認できるので非常に有効です。

仕事の都合等、決められた日程の講習会に参加できない場合もあり、e-ラーニングは都合の良い時間に受講できる。

自分の都合に合わせて何度も受講することができ、また受講中も一時中断しキーワード等をインターネットで詳細を調べることができるため、学習効果が非常に高いと思われる。

継続して、予報技術を発信してほしい。受講の期間があるのはいいが、受講終了したものは、時間が経過しても聴講できるようにしてほしい。(技術を復習するために)



今年度の新たなコースの紹介

新規 「最新の衛星観測と気象解析・予報への利用」(CPDポイント:3.0)

気象衛星センターで、衛星気象業務に携わった別所康太郎氏(気象庁予報課予報官)が、その知識や経験に基づき、静止気象衛星ひまわり8号に関わる最新のデータ利用を紹介するばかりでなく、極軌道気象衛星や地球観測衛星など、最新の気象衛星の話題を提供します。

新規 「近年の強風・突風被害の特徴と被害軽減の対策および日本版改良藤田スケールの策定と実施(第7期定時社員総会記念講演)」(CPDポイント:1.5)

風工学の第一人者である田村幸雄氏(東京工芸大名誉教授)による近年の突風事例を多く取り上げ、被害要因や減災対策などを解説した興味深い講演です。さらに横田寛伸氏(気象庁観測部計画課情報管理室長)による日本版改良藤田スケールの策定の経緯や運用に関する講演です。

新規 「2016年気象技能講習会」(CPDポイント:4.5)

気象庁で、数値予報業務やモデル開発に長年携わってきた瀬上哲秀氏が、数値予報の基礎知識・技術・しくみについて、経験を踏まえ分かりやすく解説しています。また気象庁予報課における台風の解析・予報作業について、鈴木和史氏が解説するとともに、台風中心位置決定や上陸判定などの演習を行います。

そのほか、前年度から継続して「長期予報」(CPDポイント4.5)や「2015年気象技能講習会」(CPDポイント4.5)のコースも受講することが出来ます。

募集

受講の申し込み 受講の募集は、受講用IDの登録・付与の作業を効率的に行うため、およそ1ヶ月ごとにまとめて行います。詳細は、会員情報管理ページ(<https://center.camj.jp:8080/>)の「講習会」でご確認の上、お申込み下さい。募集締め切りから視聴用のIDが付与されるまで、1週間程度の日数がかかる見込みです。

日本気象学会からのお知らせ

※詳しくは、日本気象学会ウェブサイト <http://www.metsoc.jp/> をご覧ください。

2017年度春季大会

■ 会期: 2017年5月25日(木) ~ 28日(日) ■ 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

■ 詳細は <http://msj.visitors.jp/> 大会ウェブサイトでご確認ください。

■ この2017年度春季大会では「第3回日本気象学会ジュニアセッション」が開催されます。

高校生の発表者を募集中です。

詳細は http://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session こちらでご確認ください。

気象サイエンスカフェ 支部開催今後の予定

■ 2017年1月21日(土) 気象サイエンスカフェ in 那覇

■ 2017年1月22日(日) 気象サイエンスカフェ東北

■ 2017年1月28日(土) 気象サイエンスカフェ in 関西

■ 2017年1月28日(土) 気象サイエンスカフェ in 九州(福岡)

■ 2017年1月28日(土) 気象サイエンスカフェ in かごしま

* 詳細は <http://meteocafe.blogspot.jp/> 気象サイエンスカフェウェブサイトをご確認ください。

「メソ気象の監視と予測」

白石 晶二(東京)



斉藤 和雄 著
鈴木 修 著
朝倉書店
160頁
2,900円+税

気象研究所の斉藤和雄さんが、同僚の鈴木修さんと共著で本を出された。気象学の新潮流シリーズ(朝倉書店)の第4弾『メソ気象の監視と予測』がそれである。

斉藤さんは、雲解像非静力学モデルの開発他、メソ対流系についての数々の研究功績により、気象庁長官表彰・岡田賞・岸保賞などを受賞され、現在、研究総務官の重職にある。わが日本気象予報士会の古くからの会員でもある。一方、鈴木さんは、レーダー気象、メソ気象の専門家である。ドップラー気象レーダーの実用化や竜巻注意情報の実用化などに関連して表彰された経歴の持ち主で、現在、気象衛星・観測システム研究部部長の要職にある。

この書でのメソ気象とは、集中豪雨や突風など激しいハザードを引き起こす気象ギャングどもである。それらの発見・監視、ナウキャスト、短時間予測は、気象防災上不可欠であり、これらに関わる技術・知見への理解は、気象予報士にとって必須の素養であろう。

わずか160頁の一般向け気象専門書だが、一気に読めるかという、なかなかそうはいくまい。監視・ナウキャストにしても、短時間予測にしても、気象研

究所をはじめとする著名な気象研究機関や気象庁での現場運用で得られた最新の知見・技術が、ぎっしりと詰め込まれているからである。また、将来を見据えての研究開発の方向性も著述されている。最前線で模索している研究者としての苦悩も読み取れるが、読後の感想を端的に言えば「深い、凄い、素晴らしい、今後に期待」といったところ。

近年、気象情報の発展のスピードには質・量ともに瞠目させられる。ぼやぼやしていると、気象予報士の資格は返上しなくてはなるまい。気象災害国との異名をもつ日本だが、東京オリンピック2020までにいかなる防災気象情報が提供されるようになるであろうか。そういうことも、この小著から見えてくる。ただし、気象予報士にとって最も重要なことは、こうした素晴らしい研究成果の利点・欠点をよく承知の上で気象情報を使いこなすことである。精度がいかに向上了とは言え、鵜呑みにしてはならない。利用するには理にかなった工夫が必要である。そのためには日々研鑽あるのみだが、この書には嬉しいことに参考文献が多々記されており、勉強の手がかりを与えてくれている。

2016秋 東京案内会・大阪案内会 開催報告

小川 雅仁(常務理事 副幹事長 兼 組織担当幹事)

この秋も東京・大阪をはじめ、全国各地で案内会を開催しました。気象予報士試験の合格者数が年々減少するなか、案内会を通じてできるだけ多くの合格者に本会のことを知っていただくことが、本会活動の維持・発展には欠かせません。幹事会有志は、8月の試験会場(東京2か所)で案内会のチラシ配りを行い、その効果もあってか、東京会場は27名、大阪会場は5名をお迎えすることができました。32名が全員男性という事実は主催者側には衝撃的でしたが。

支部、部会、有志活動団体の皆さんには今回も周到な準備をしていただき、いつものように中身がぎっしり詰まった案内会になりました。参加者の感想は次号に掲載しますのでお楽しみに。



東京案内会集合写真



大阪案内会集合写真

日本気象学会・日本気象予報士会 共催 **気象サイエンスカフェ**

「気象サイエンスカフェ」は、気象や防災、環境にまつわる科学技術と社会を語るイベントです。

10.1
開催

第44回気象サイエンスカフェ東京(東京理科大学理窓会 第1会議室)

言葉だけで伝える気象情報 ～ラジオでの気象解説の裏話～

話題提供者: 伊藤みゆきさん (NHK ラジオ 気象キャスター)

10月1日(土)「第44回気象サイエンスカフェ東京」を東京理科大学理窓会 第1会議室で開催しました。ゲストスピーカーに伊藤みゆきさん(NHKラジオ気象キャスター)を招いて、「言葉だけで伝える気象情報」～ラジオでの気象解説の裏話～のテーマでお話をいただきました。はじめにNHKラジオ気象解説者としてご活躍にいたるまでのご紹介。続いてラジオで気象を伝える難しさや課題について。参加者には自己紹介と周りの人の「イイところ探し」をグループごとに実践体験いただき、盛り上がりました。後半はラジオからについての話。ラジオには“文字”ではなく“肉声”による安心感があるなどテレビには無い強みがあるから、言葉だけで

伝えるために、心の中で祈りながら想いを込めて話す、と言う伊藤さん。最後に、事前に予測できる気象現象と予測が難しい気象現象についての解説、気象キャスターを目指し、オーディションを受けるための心構えについてもご自身の体験からご紹介がありました。参加者からは、“希少な話を沢山聞くことが出来た”“印象に残る話が多かった”と満足の声が多く届けられました。

(日本気象学会教育と普及委員会 岡田登志恵)



12.3
開催

気象サイエンスカフェ in 長野(長野市城山公民館第二地区分館)

天文学で読み解く銀河鉄道の夜 話題提供者: 大西浩次さん (長野工業高等専門学校 教授)

4K映像による空の探検 話題提供者: 武田康男さん (空の探検家 気象予報士)

宙(そら)と空の美しい映像と動画が繰り広げられた今回のサイエンスカフェ。参加者は銀河を眺め、銀河鉄道で旅をし、スプライトを捕まえた瞬間を目撃し、南極を旅しました。大西さんの星景写真、武田さんの4K動画、そしてお二人の深くて軽やかな楽しいお話。

長野市城山公民館との共催により、広く一般に呼びかけをしていただき、子どもから大人まで90人ほどの参加がありました。講演会ではなく参加型の交流の場であることをうまく伝えられたため、会場からはどんどん質問が飛び出しました。

ガリレオの衣装で登場の大西さん、美しい星景写真の数々と、「銀河鉄道の夜」に絡めた宮沢賢治の銀河と最新の銀河の姿の交差、小さな子どもにも分かりやすく、濃い内容を伝えてくださいました。銀河系をどら焼きのような形とイメージしている人が多かったのですが、なんとCDのような形だそうです。「えー、薄い」と会場から声が上がりました。休憩時間には星好きの7歳の男子と大西さんが会話をされていて、これがサイエンスカフェなんだと、実感しました。

武田さんはまずスプライトの話題から。雷雲から宇宙に向かって放たれる赤い光、動画でスプライトの発生する瞬間の様子が良く分かりました。わ

ずか一瞬、奇跡のような撮影でした。そして、雲、空、星々、たくさんの映像を用意してくださって、小さな子どもたちのために、南極の氷の上を腹ばいに移動していくペンギンたちの動画も見せてくださいました。迫力のある美しい4K映像に、動画の力を思い知りました。会場への質問を交えたお話には、子どもたちも考えた答えを口に出してくれていました。

南極の地平を這うように進む白夜明けの太陽と、ウユニ塩湖の雷の映像が、忘れられません。

三日月と金星が寄り添うように輝く夕暮れの中を、空を見上げながら帰って行く参加者の皆さんの姿が心に残りました。

夜の部は総勢21人で懇親会。講師の先生方とその友人の方々、それに气象台や日本気象予報士会の方々と楽しい時間を過ごしました。

大きなイベントでしたが、盛会で楽しく、無事に行うことが出来ました。

(長野支部 吉田桂子)



都市の気候と緑・水的环境デザイン

話題提供者: 堀越哲美さん (愛知産業大学学長)

気象サイエンスカフェ in 名古屋は、7年前に初めて開催してから今回で11回目を迎えました。おおむね年に2回開催しており、これからもいろいろな話題を選択し、一般の人たちに気象に興味を持ってもらえるよう続けていきたいと思っています。

今回は、第8回まで利用していた「セブンスカフェ」で開催しました。この場所は、名古屋市の2大繁華街の一つ栄地区に位置し、Loftも入っている若者が集まるナディアパーク内にあります。青少年の芸術文化活動の拠点として設置された青少年文化センターにある「セブンスカフェ」は、ピアノやギターの生演奏を聴くことができるライブ&ギャラリーカフェで、いろいろな形のイスやテーブルがある芸術色豊かな空間です。

今回、スピーカーにお迎えした堀越先生は、一昨年8月9日に行った大規模な同時多点気温調査の「名古屋気温測定調査2015」の実行委員にも参加され、名古屋のヒートアイランド対策の提言もされています。お話は、体感温度、緑の効果、舗装の影響など、主に名古屋市を中心とした話題で、楽しく

興味深く聞くことができました。初めの1時間を主に先生からのお話、休憩をはさんで後半1時間は、参加者からの質問にお答えしていただきました。質問時間を多くとったことから、参加者ほぼすべての人が、自分地域のことから地域全体のことまで疑問に思ったことをそれぞれ質問し、強制的に終了しないと終わらないなど、非常に盛り上がったサイエンスカフェだったと思います。

また、今年度2回目となる第12回目を2017年2月頃に開催を考えていますが、これまでも課題であった、いかに一般の人に周知できるかをより工夫して、案内を出し開催できたらと考えています。(東海支部 岩田典行)



気象庁からのお知らせ

竜巻注意情報をより精度良く、対象地域を絞り込んで発表します

竜巻などの激しい突風が起きる可能性が高いときに、気象庁は竜巻注意情報を発表して注意を呼びかけます。この竜巻注意情報に対して、予測精度を向上させ、発表区域を従来の概ね県単位から天気予報と同じ一次細分区域に絞り込む改善を平成28年12月15日に行いました。過去のデータによる検証では、従来は概ね県単位の発表で捕捉率が約40%、適中率が約3%であったのに対して、改善後は一次細分区域の発表で捕捉率が約70%、適中率が約14%に向上しています。

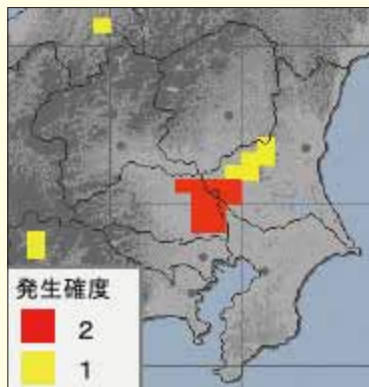
このような大幅な精度向上は、竜巻注意情報の発表に使われる竜巻発生確度ナウキャストにおいて、竜巻のメカニズムに関する最新の研究成果を取り込んで竜巻が発生する可能性がある地域を絞り込んだこと、竜巻の前兆現象であるメソサイクロンの検出に国土交通省XRAINのデータを追加して検出能力を向上させたこと、突風災害の現地調査等から得られた正確な発生場所と時刻を利用して注意喚起のタイミングを調整したことなどにより実現したものです。

発表区域の絞り込みと予測精度の向上により、住民の方にとって、竜巻注意情報はこれまで以上に自らの危険を示すものとして認識していただけるようになりました。竜巻注意情報が発表された際の解説では「竜巻発生確度ナウキャストを確認するとともに、空の様子に注意して、空が急に真っ暗になる、大粒の雨が降り出す、雷鳴が聞こえるなど積乱雲が近づく兆候があれば頑丈な建物に避難するなど身の安全を確保する」という呼び掛けをお願いします。

■ 竜巻注意情報 <http://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

■ 竜巻発生確度ナウキャスト <http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/index.html?areaCode=000&contentType=2>

竜巻発生確度ナウキャスト



従来の発表区域



改善後の発表区域

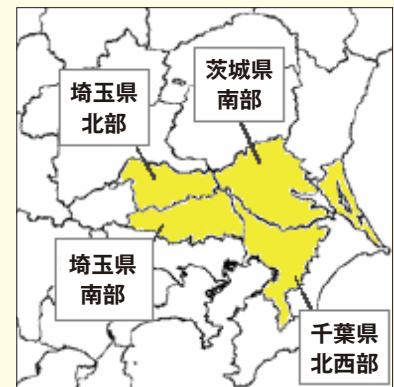


図 竜巻注意情報の発表区域の絞り込みの例(図は関東地方を表示)。
竜巻発生確度ナウキャストで発生確度2が予測された地域に竜巻注意情報が発表される。

第8期改定予算のご報告

第23回理事会（11月26日開催）にて、第8期上期の業務報告・会計報告を行い、上期の収入・支出状況を反映した年間の改定予算が下記の通り承認されました。第7期定時社員総会議案書の「第8期における重点取り組み項目」の状況、および改定予算策定の基本方針は次のとおりです

重点取り組み項目の状況

■「インプット」の拡充■

● 気象技能講習会特論「最近の衛星観測（仮）」Web配信コンテンツの制作 ● 「気象記念講演」等の講演内容のWeb配信 ● 「プレゼンテーションスキル（仮）」等の新たな分野のWeb配信コンテンツの検討 ● Web配信受講料の改定による参加機会の拡大 → 10月より改定した受講料にて順次Web配信の募集をスタート、新たな分野のコンテンツは今後要検討

■「アウトプット」の拡充■

● 地元気象台と連携した支部独自の新たな出前講座の開発支援 → 東海支部では独自で出前講座を実施 ● 防災科学技術研究所との協働による攻めの防災学習プログラム等の開発 → 11月より本会より客員研究員を派遣し協働開始 ● 会員有志の執筆協力による「改訂版 気象予報士ハンドブック」の出版 → 第8期末の完了に向け進行中 ● より広範な求人情報の提供による就業機会の拡充 → 気象業務許可事業者を中心に個別アプローチを行った結果、11月時点で第7期を上回る求人情報を配信済み

■「情報システム」の拡充■

● Webサイトリニューアルによるアクセスと活用利便性の向上 → リニューアルの詳細について討議中 ● メーリングリスト等、会員間のコミュニケーション手段の改善 → 支部・有志活動からのイベント情報配信に特化した新メーリングリスト構築を調整中 ● 会報「てんきすと」バックナンバーアーカイブによる情報の資産化 → バックナンバーアーカイブ化完了 ● 「研究成果発表会」予稿の情報共有と社会への発信 → 発表者から共有化への了承取得し、Webサイトリニューアル時に公開予定

1. 気象予報士としての技能の研鑽・向上

気象技能講習会を中心として、会員個々の技能研鑽を目指す活動です。会場型の気象技能講習会は当初の見込みより減となっておりますが、第8期重点項目であるWeb配信については10月より募集を開始しており、当初予算通り遂行するべく進めてまいります。

2. 民間気象ニーズに応じるための気象予報技術の研究開発

研究成果発表会を開催し、会員個々の研究活動の推進を図る活動です。本年度は2月に東京で開催予定です。

3. 気象予報士の地位向上及び気象予報士制度の改善に資する活動

長期的視野から、気象予報士の地位向上と制度改善を図る活動です。気象予報士CPD制度を正式稼働しており、順次認定プログラムの登録を行っています。

4. 気象・防災行政に対する支援

気象庁が推進する、局地的大雨等の被害軽減に向けた取組への協力活動（BP）や地元気象台と連携した支部独自の新たな出前講座、防災科学技術研究所との協働による防災学習プログラム等の開発です。第8期重点項目である防災科学技術研究所との開発事業が11月にスタートしました。

5. 民間気象事業に対する支援および気象関連機関等との連携による気象事業の振興

気象科学館案内員協力の他、各地気象台が行うお天気フェアへの参加などの気象事業振興を行う活動です。スペシャルセッションを10月に名古屋にて開催しました。

6. 防災・地球環境を含む気象知識の教育・普及その他社会貢献活動

日本気象学会教育と普及委員会活動への協力等を通じて気象知識の普及を行う活動です。公開気象講演会や夏季大学、気象サイエンスカフェへの開催協力を行いました。

7. 気象を通じての国際的活動

英文パンフレットの作成や、ウェブサイトの再構築のほか、海外組織との交流を検討します。

8. 会員間の交流の活性化及び会員に対する各種情報の提供等、会員活動の支援

会報てんきすと発行や会員表彰、会員証発行、会員名刺の提供およびSUGDaSSによる気象情報提供等により、会員活動の支援を行う活動です。てんきすとは、予定通り年6回発行します。

9. 会の活動基盤の拡充

案内会による会員数の増加や、支部活動支援を通じた活動基盤の拡充を行う活動です。案内会は各支部の協力で全国規模で開催しました。

10. 本会運営

各種会議開催の他、事務所経費、税理士経費など本会運営の基本となる活動です。定時社員総会、理事会・幹事会をほぼ予定通り開催しました。

第8期改定予算表

事業項目	内容	予算項目	第8期収入			第8期支出		
			改定予算	当初予算	差	改定予算	当初予算	差
1. 気象予報士としての技能の研鑽・向上			3,093,600	3,880,000	(786,500)	3,176,343	3,366,400	(190,057)
気象記念講演会	気象・防災・環境関連講演	交通費				36,752	33,000	3,752
		受講料	1,032,000	1,800,000	(768,000)			
		設営費				183,353	300,000	(116,647)
		交通費				252,550	500,000	(247,450)
		講演料				310,232	400,000	(89,768)
		講師補助費				0	30,000	(30,000)
		Web配信受講料	1,840,000	1,840,000	0			
		Web配信管理費				500,000	600,000	(100,000)
		Web配信コンテンツ作成費				910,000	650,000	260,000
		Web配信ID費				652,160	700,000	(47,840)
気象技能講習会	講習ノート制作	売上	221,500	240,000	(18,500)			
		購入費				195,000	0	195,000
		執筆料				90,000	105,000	(15,000)
	気象技能講習会運営委員会	会議費・交通費				46,296	48,400	(2,104)
2. 民間気象ニーズに応じるための気象予報技術の研究開発						32,000	30,000	2,000
研究成果発表会	会員の気象調査研究の奨励、成果発表	会議費・交通費等				30,000	30,000	0
	商標登録	権利維持費				2,000	0	2,000
3. 気象予報士の地位向上及び気象予報士制度の改善に資する活動			300,000	300,000	0	330,000	350,000	(20,000)
気象予報士CPD制度	気象予報士CPD制度運営委員会	会議費・交通費				10,000	30,000	(20,000)
	外部協賛企業・非会員気象予報士参加費	会費	300,000	300,000	0			
	システム保守・運営費	システム開発費				200,000	200,000	0
		システム維持費				0	0	0
		サーバー費				120,000	120,000	0
4. 気象・防災行政に対する支援			1,000,000	1,000,000	0	900,000	900,000	0
防災知識普及協力	防災行政・民間気象事業(BP)の支援事業の推進	人件費・交通費・会場費等	1,000,000	1,000,000	0			
	防災科学技術研究所	人件費・交通費・会場費等	0	0	0	900,000	900,000	0
		人件費・交通費・会場費等	0	0	0	0	0	0
	支部独自の出前講座	人件費・交通費・会場費等	0	0	0	0	0	0
5. 民間気象事業に対する支援および気象関連機関等との連携による気象事業の振興			2,174,578	2,100,000	74,578	2,073,036	2,190,000	(116,964)
気象庁との共同活動	気象科学館における広報協力	交通費等	674,578	600,000	74,578			
		交通費等				674,578	600,000	74,578
	お天気フェア運営協力	人件費・交通費等	1,500,000	1,500,000	0			
気象業務支援センターとの共同活動	意見交換会	交通費				1,158,458	1,350,000	(191,542)
	気象振興協議会	年会費				40,000	40,000	0
日本気象学会との連携	意見交換会	交通費				0	0	0
	評議員	交通費(外部招へい除く)				200,000	200,000	0
6. 防災・地球環境を含む気象知識の教育・普及その他社会貢献活動						43,000	43,000	0
日本気象学会との共同活動	教育と普及委員会会議参加							
	夏季大学運営協力							
	公開気象講演会運営協力					0	0	0
	気象サイエンスカフェ運営協力	交通費・会場費・講演料等				43,000	43,000	0
他団体との連携	日本科学協会イベント協力							
気象書籍	気象書籍の出版							
7. 気象を通じた国際的活動						0	0	0
国際広報	英語版ウェブサイト運営	会議費・交通費				0	0	0
	英語版パンフレット	制作費				0	0	0
国際交流	関連機関との交流	会議費・交通費				0	0	0
8. 会員間の交流の活性化及び会員に対する各種情報の提供等、会員活動の支援			2,072,400	2,150,000	(77,600)	6,127,741	6,604,000	(476,259)
会報発行	てんきすと編集印刷	編集費・印刷費				1,567,400	2,050,000	(482,600)
	てんきすと広告	広告料・制作費	122,400	200,000	(77,600)			
電子広報	ウェブサイト・メールリスト運営	ホスティング費				1,600,000	1,600,000	0
	情報システムインフラ整備	ソフトウェア費等				1,000,000	1,000,000	0
気象情報提供	SUGDaSS・SUGDaSS2 運用	契約料				260,000	260,000	0
イベント開催等	映画試写会開催							
	割引券の配布等							
	表彰審査委員会	会議費・交通費				246,214	164,000	82,214
会員表彰	賞状・副賞	メダル製作費・賞金				6,307	30,000	(23,693)
	表彰式関連	交通費				0	70,000	(70,000)
会員証	会員証の発行	製作費				0	0	0
名刺	会員名刺の有償提供	製作費	240,000	240,000	0			
書籍販売	会員に対する書籍の販売	売上	960,000	960,000	0			
書籍出版	書籍の出版(気象予報士ハンドブック改訂版)	購入費				840,000	840,000	0
		監修料	750,000	750,000	0			
会員活動支援	会員活動支援	会場費等				250,000	250,000	0
団体保険	傷害保険	保険料				0	0	0
9. 会の活動基盤の拡充						107,820	90,000	17,820
案内会	理事会・支部・有志活動団体の紹介等	会議費・交通費等				1,856,425	1,905,000	(48,575)
支部連絡会議	理事会・幹事会・支部代表者による意見交換	会議費・交通費等				347,610	400,000	(52,390)
理事活動経費	理事活動経費	交通費				450,000	450,000	0
活動経費交付	支部事務経費等を補助	活動経費				70,000	100,000	(30,000)
本会案内制作	本会案内制作	制作費・印刷費				855,000	855,000	0
倫理規定作成委員会運営	倫理規定作成委員会の運営費	会議費・交通費				133,815	100,000	33,815
						0	0	0
10. 本会運営			17,154,929	17,256,000	(101,071)	12,256,862	12,297,600	(40,738)
会議	定時社員総会	会場費・交通費等				316,890	400,000	(83,110)
	理事会・幹事会	会議費				200,000	310,000	(110,000)
	顧問会議	交通費・宿泊費				1,150,000	1,200,000	(50,000)
本会運営・整備	事務所運営	会議費・交通費				5,000	5,000	0
		消耗品費				300,000	300,000	0
		賃賃料・光熱費等				2,365,000	2,365,000	0
		物品購入				300,000	300,000	0
		物品修繕費				100,000	100,000	0
		人件費				2,400,000	2,400,000	0
		郵送料				2,100,000	2,220,000	(120,000)
		事務所移転費				0	0	0
		外注費				840,000	720,000	120,000
		システム改善費				0	0	0
財務関連	会計士・税理士経費				324,000	345,600	(21,600)	
	財務関連諸経費				150,000	200,000	(50,000)	
	預金利息	1,500	3,000	(1,500)				
法人税				70,000	70,000	0		
BCP(事業継続計画)	会議費・交通費				0	0	0	
渉外活動	会議費・交通費等				34,560	0	34,560	
年会費	年会費							
雑収入	雑収入							
雑支出	雑支出							
貸倒引当金	貸倒引当金							
督促状発送	督促状発送							
規則整備	規則整備	会議費・交通費				0	0	0
司法書士経費	司法書士経費				140,610	100,000	40,610	
予備費	予備費	予備費				196,814	34,000	162,814
総合計			25,795,407	26,686,000	(890,593)	26,795,407	27,686,000	(890,593)

イベント情報

※ 最新の情報は日本気象予報士会ウェブサイトのイベントカレンダーおよび電子会議室Forumでご確認ください。

北海道支部

【第69回例会】

・日時：2017年2月26日(日) 13:30～17:00
 ・会場：札幌市男女共同参画センターOA研究室 ・内容：未定

【第70回例会】

・日時：2017年3月25日(土) 13:30～17:00
 ・会場：札幌市男女共同参画センター研修室1 ・内容：未定
 ●連絡：北海道支部連絡窓口 <yohoshi-hokkaido@outlook.jp>

東北支部

【大雨防災ワークショップ見学会兼2月例会】

・日時：2017年2月4日(土) 13:30～15:30
 ・会場：宮城県立名取北高等学校(名取市増田字柳田103)
 ・内容：専門家役1名とスタッフ3名以外の方は見学(10分前にお集まりください)

【3月例会】

・日時：2017年3月4日(土) 13:30～17:00
 ・会場：仙台市戦災復興記念館 4階第1会議室
 ・内容：1.話題提供 2.ミニ天気図検討会 3.その他
 ●連絡：杉山公利 <sugiyamak@nifty.com>

北関東支部

【群馬部会3月例会】

・日時：2017年3月25日(土) 13:00～17:00
 ・会場：前橋市市民活動センター PePo
 ・内容：話題提供
 ●連絡：小河原哲 <togahara@ybb.ne.jp>

埼玉支部

【講演会】

・日時：2017年3月4日(土) 10:00～11:45
 ・会場：入間市立中央公民館第4号室
 ・内容：気象庁現業班長の仕事(気象庁予報部予報課 竹田康生氏)
 ●連絡：富川誠一 <0370683101@jcom.home.ne.jp>

千葉支部

【第46回例会】

・日時：2017年2月18日(土) 13:00～17:00
 ・会場：千葉市民会館第6会議室
 ・内容：1.話題提供 2.その他

【第10回総会及び第47回例会】

・日時：2017年4月22日(土) 13:00～17:00
 ・会場：千葉市民会館第6会議室
 ・内容：1.総会 2.記念講演 3.話題提供 4.その他
 ●連絡：石井賢次 <ishimasa@galaxy.ocn.ne.jp>

東京支部

【第61回例会】

・日時：2017年2月11日(土) 13:00～17:00

・会場：日比谷図書館スタジオプラス
 ・内容：1.講演：「古日記・古気象記録から復元する19世紀の台風と災害」 首都大学東京名誉教授 三上岳彦先生
 2.発表「1900年から2014年における日本の台風上陸数」 横浜国立大学・筆保研究室 熊澤里枝様
 「東京湾台風」(1917年)ー東京を襲った高潮災害ー 藤井聡会員
 「1944年台湾沖航空戦と台風」 濱野哲二会員
 3.その他
 ●連絡：田家 康 <tange@sannet.ne.jp>

神奈川支部

【第86回神奈川支部例会】

・日時：2017年3月4日(土) 13:00～17:30(受付12:30～)
 ・会場：横浜国立大学教育人間科学部講義棟6号館-102
 ・内容：1.東海大学中島先生招待講演「人工衛星を用いた大気観測」
 2.横浜国立大学筆保研究室の学生発表
 3.会員からの話題提供
 ●連絡：遠藤泰彦 <yasu-20-nov@kjf.biglobe.ne.jp>

新潟支部

【例会(対象は会員のみ)】

・日時：2017年2月18日(土) 13:00～17:00
 ・会場：長岡市「まちなかキャンパス長岡」5階503号室
 (新潟県長岡市大手通2-6フェニックス大手イースト)
 ・内容：天気図検討会(講師：内藤会員)、支部連絡事項他(懇親会含)
 ●連絡：田村正道 <michi.24j@gmail.com>

東海支部

【第235回例会】

・日時：2017年2月18日(土) 13:00～16:30
 ・会場：さくらピア(豊橋市)
 ・内容：1.三河地方の気象特性 2.視覚障害者への気象防災講座
 3.長期予報利活用研究会の案内

【第236回例会】

・日時：2017年3月18日(土) 13:00～16:30
 ・会場：未定
 ・内容：1.天気図検討会 2.御嶽山噴火の体験談

【第237回例会】

・日時：2017年4月15日(土) 13:00～16:30
 ・会場：未定
 ・内容：1.新規合格者案内会 2.思い出の気象出来事
 ●連絡：関谷不二夫 <gozaisho@m5.cty-net.ne.jp>

静岡支部

【第49回例会】

・日時：2017年2月25日(土) 13:00～17:00
 ・会場：B-nest 演習室2 ・内容：話題提供ほか
 ●連絡：藤井 聡 <vnzu5so7@qc.commufa.jp>

関西支部 大阪部会

【大阪部会 第57回例会】

・日時：2017年2月18日(土) 13:30～17:00
 ・会場：堺市西文化会館7 FAVルーム

平成28年度気象技能講習会(最新の予報技術)の開催について

開催日時等

■中頭郡西原町(沖縄)

【日時】2月4日(土) 13:30～16:30

【会場】琉球大学327教室

【講師】瀬上哲秀委員

※募集開始は開催の約1か月前です。
common-MLや本会ウェブサイトでご告知します

受講料

会 員：3,000円 非会員：6,000円(講義ノートダウンロード代金及び実習資料代金を含む)

講義ノートを印刷物として希望される方は、別途実費料金(1,000円)をいただきます。

申込方法

●会員情報管理ページからの申込：<https://center.camj.jp/>

※操作方法が分からない場合は、jimu@yoho.jpまで

お問い合わせください。

●本会ウェブサイトのお問い合わせフォーム(非会員)

●はがきでの申込：はがきに氏名、会場名、購入する教材を記入して下記宛先までお申し込みください。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-3-3 虎ノ門南ビル3階A
日本気象予報士会本部事務所 宛

CPDポイント

3時間 4.5ポイント

- ・内容：1.天気図検討会 2.話題提供他
- 連絡：大嶋耕一<osaka.yoho@gmail.com>

岡山支部

【第41回例会】

- ・日時：2017年1月28日(土) 13:00~17:00
- ・会場：岡山県立図書館サークル活動室
- ・内容：話題提供
- 連絡：廣幡泰治<fwhd4150@mb.infoweb.ne.jp>

広島県支部

【広島県支部第100回例会】

- ・日時：2017年3月4日(土) 13:00~17:00
- ・場所：広島市まちづくり市民交流プラザ B会議室
- ・内容：1.事務連絡 2.記念講演：下山紀夫先生

【広島県支部第9回総会・第101回例会】

- ・日時：2017年4月15日(土) 13:00~17:00
- ・場所：広島市西区民文化センター 小会議室2
- ・内容：1.広島県支部第9回総会 2.春の案内会
3.広島県支部第101回例会(事務連絡、話題提供、天気図検討会)
- 連絡：坂本捷典<qqxc2mfd@perl.ocn.ne.jp>

西部支部

【第223回例会】※懇親会もあわせて出欠をご連絡ください

- ・日時：2017年2月4日(土) 13:00~17:00
- ・会場：山口大学農学部2階大会議室
- ・内容：山本晴彦教授(山口大)講演「帝国陸軍の気象観測について」他話題提供

【第224回例会】※懇親会もあわせて出欠をご連絡ください

- ・日時：2017年3月11日(土) 13:00~17:00
- ・会場：都久志会館 501会議室
- ・内容：話題提供

【第225回例会】※懇親会もあわせて出欠をご連絡ください

- ・日時：2017年4月8日(土) 13:00~17:00
- ・会場：未定
- ・内容：話題提供
- 連絡：<http://www.facebook.com/seibushibu>
(期日・場所の確認及び申し込みはイベントページ又はメールをお願いします)
松尾比呂孝<h_matsuo762@nifty.com>
渡邊孝太郎<fujikotaro@hotmail.com>

鹿児島支部

【2月例会】

- ・日時：2017年2月12日(日) 14:00~17:00
- ・会場：鹿児島市勤労者交流センター 第1会議室
- ・内容：話題提供など
- 連絡：渡司陵太<w@ryo-tawn.com>
森 雅宇<mr0318117@yahoo.co.jp>

沖縄支部

【第13回例会】

- ・日時：2017年2月4日(土) 13:30~16:30
- ・会場：琉球大学327教室
- ・内容：平成28年度気象技能講習会 講師：瀬上哲秀 様
- 連絡：沖縄支部<camj_okn@yoho.jp>

長期予報利活用研究会

【第68回例会】

- ・日時：2017年3月5日(日) 13:00~17:00
- ・会場：台東区生涯学習センター 306・307会議室
- ・内容：話題提供ほか
- 連絡：藤井 聡<vnzu5so7@qc.commufa.jp>

関東地区天気図検討会

【第203回天気図検討会】

- ・日時：2017年2月5日(日) 13:00~17:00
- ・会場：台東区生涯学習センター 407会議室

【第204回天気図検討会】

- ・日時：2017年3月25日(土) 13:00~17:00
- ・会場：台東区生涯学習センター 301会議室
- ・内容：当日9時の実況解析と翌日の予想を予定しています。
※9時から予習が可能です。
初参加の方を対象にした基礎コースを併設します。
- 連絡：八木健太郎<BXQ07742@nifty.ne.jp>

波浪研究会

【第38回波浪研究会】

- ・日時：2017年3月11日(土) 13:00~12日(日) 12:00
- ・会場：茨城県大洗海岸
- ・内容：波浪観測実習
- 連絡：橋本真由美<yon@mta.biglobe.ne.jp>

パソコン活用研究会

【第44回例会】

- ・日時：2017年2月18日(土) 10:00~17:00
- ・会場：台東区生涯学習センター 301会議室
- ・内容：ソフトのインストール・使い方など
- 連絡：大門禎広<daimon@y.email.ne.jp>

サニーエンジェルズ

【第8回サニーエンジェルズ総会】

- ・日時：2017年3月11日(土)
13:00~15:00 研修会、15:00~17:00 総会
- ・会場：会場は決まり次第、サニーエンジェルズのMLおよびウェブサイトでお知らせします
- 連絡：山本由佳<myy.bears@gmail.com>

天気図を囲む会

【第45回天気図を囲む会】

- ・日時：2017年3月20日(月・祝) 13:00~17:00
- ・会場：台東区生涯学習センター 301会議室
- ・内容：今冬の特徴、冬の気象現象から顕著なものを2題ほど
- 連絡：八木健太郎<BXQ07742@nifty.ne.jp>

気象予報士よんまる会

【第4回総会兼例会】※会員以外の参加も大歓迎

- ・日時：2017年3月18日(土) 時間未定
- ・会場：未定
- ・内容：1.総会 2.話題提供 3.その他(打合せ等)
- 連絡：浅井孔徳<yasai@yonmarukai.jp>

EVENT INFORMATION

イベントメーリングリスト構築のお知らせ

本会公式のメーリングリスト(ML)の一部を改訂し、新たに支部・有志活動のイベント情報などの情報提供に特化したイベントメーリングリスト(略称「イベントML」、アドレス event@yoho.jp)を構築いたします。

現在本会公式のMLには、common、yoho、forumの3種があります。この内forumに関しては、支部・有志活動のイベント情報や、

会員個々の意見・コメントが配信されておりますが、様々な情報が混在し、MLの特徴が少々不鮮明になっております。このため、現在forumにて配信されている、支部・有志活動のイベント情報部分を新たに構築するイベントMLに移動致します。イベントML構築後の各公式MLの位置付け等は表のとおりです。

イベントMLの構築に関しては、本会一部規則の改定が必要なため、実施時期は本年春から夏を予定しております。

ML名	情報提供	ル	一	ト	内容	登録	備考
common	発信：本部 → 全会員				公式告知	全会員	保険・CPDポイント適用
event	発信：支部・有志活動 → 全会員	返信：各会員 → 発信人			例会等のイベント情報連絡	全会員	保険・CPDポイント適用
forum	発信：会員個人 → 全会員	返信：会員個人 → 全会員			会員間情報交換	任意	
yoho	発信：会員個人 → 全会員	返信：本部 → 全会員			会員からの公開質問	任意	

2016年度 日本気象予報士会賞・木村賞・石井賞候補者募集のお知らせ

日本気象予報士会では、日本気象予報士会賞・木村賞・石井賞を設け、会員の活動を奨励しています。各賞の趣旨および推薦の要項は次のとおりです。これらの賞の受賞候補者の募集を行いますので、奮ってご応募ください。

日本気象予報士会賞

本会の活動目的に沿う顕著な成果に対して与えられる賞
推薦は会員の他薦による（1人1件のみ）

推薦書は、下記の4点を参考にご記入ください

（必ずすべて記入しなければならないというものではありません）

- ① 本会の運営に対しての貢献（組織基盤の強化・発展）
- ② 技術向上に対しての貢献（本会内での中心的な活動）
- ③ 本会の社会的な地位向上に対しての貢献（外部からの評価）
- ④ 気象技術向上を通じて気象情報の利活用の研究・促進への貢献

木村賞

優れた研究成果に対して与えられる賞
推薦は自薦または他薦による（件数制限なし）

研究論文添付

石井賞

活発な活動およびその運営に対して与えられる賞
推薦は自薦または他薦による（件数制限なし）

活動報告書（支部・有志活動団体など）添付

- ※ 木村賞および石井賞については、本応募のほかに、日本気象予報士会研究成果発表会の参加論文も候補として取り扱います。
- ※ 三賞とも、会員個人または支部、有志活動団体その他会員により構成する団体が対象です。

応募要領

本会ウェブサイト会員ページに掲載の推薦書（ダウンロード可）に必要な事項を記入の上、所要の書類等を添付し、表彰審査委員会に期限内に提出のこと。

※ 推薦書は表彰審査委員の方が判断しやすいように工夫し、「これならば是非表彰したい」と思うように、できるだけ詳しくお書きください。

- ① 応募期限：2017年3月31日（金）必着
- ② 提出手段：メール添付または郵送（FAXは不可）
- ③ 提出窓口：

<メール宛先>

本部事務所：jimu@yoho.jp

<郵送宛先>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-3-3

虎ノ門南ビル3階A

一般社団法人日本気象予報士会

表彰審査委員会 宛

- ④ メール件名、封書表書き：「日本気象予報士会賞（または、木村賞、石井賞）候補者推薦」であることを明記のこと。
なお、詳細については、本会ウェブサイトをご覧ください。

第9回日本気象予報士会研究成果発表会の開催と会場について

この発表会は、木村賞候補論文の審査を一部兼ねるものです

- 日時：2017年2月25日（土）10：00～17：00
（時間は発表申し込み件数により変更することがあります）
- 会場：慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎 大会議室
（神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1）
http://www.hc.keio.ac.jp/ja/hiyoshi_campus/guide/

※詳細は『てんきすと』103号を参照してください

- 問い合わせ先：
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-3-3 虎ノ門南ビル3階A
一般社団法人日本気象予報士会
E-mail：jimu@yoho.jp

※次回（2018年2月予定）の開催場所は関西地区を予定しています

理事会・幹事会からのお知らせ

今後の理事会・幹事会等の予定

今後の理事会・幹事会は、以下の日程での開催を予定しております。これらの会議日程は、事情により変更となる場合がありますのでご注意ください。最新の日程および場所についてはcommonメーリングリストにてご確認ください。

- 第112回幹事会 … 2月18日（土） ● 第117回幹事会 … 6月10日（土）
- 第113回幹事会 … 3月18日（土） ● 第8期定時社員総会、
- 第114回幹事会 … 4月15日（土） 第25回理事会 … 6月17日（土）
- 第115回幹事会 … 5月6日（土）
- 第116回幹事会、第24回理事会
……………5月13日（土）

編集後記

◆あけましておめでとうございます。昨年は多くの方々の協力のもと会報「てんきすと」100号を無事に発行することができました。本年も会報「てんきすと」をよろしくお願ひします。◆2ページに掲載しているQ&Aの重ね合わせ図を見て、やっぱりカラーはいいなと思い「てんきすとは今後毎号フルカラーにする」と当時の常任理事会で決定した事をつい思い出してしまいました。 (茶会長)

◎一般社団法人日本気象予報士会 E-mail:jimu@yoho.jp ◎公式ウェブサイト <http://www.yoho.jp/>